

第4章 新市建設の施策1 戦略的事業～地域らしさ価値の確立

戦略的事業とは、新市将来構想の実現に向けた事業であり、将来構想の「地域らしさ価値(ブランディング価値)」を高めるために、住民と行政が一体となって、今後10年の間に取り組んでいくべき事業です。39ページで述べた建設計画策定方針の地域経営の視点、ブランディングの視点に基づき、戦略方針に即した具体的事業を設定しています。また、新市将来構想における「地域の夢」との関わりの強いものや市民活動、地域の歴史・伝統文化など、地域資源の強みを伸ばしていくことを大切にしています。

なお、ハード施策に当たっては、まずは十分な調査や市民活動及び体制整備などのソフト施策から取り組むものとし、その熟度や効果を見極め必要なものから順次展開することを基本としています。

1. 戦略的事業一覧

実現しようとする「地域らしさ価値(ブランディング価値)」「重点実現項目」別に、建設計画期間の10年間で実施を予定している戦略的事業は以下のとおりです。

(1) 地域らしさ価値Ⅰ：「独創企業が生まれ育つ都市」に向けた戦略的事業

重点実現項目	戦略的事業
新ながおかが誇る技と人をネットワークする匠の国を創り上げる	地域産業ブランド力強化事業
	ジョイントベンチャー※ ⁹ ネットワーク形成促進事業
	テクノミッション※ ¹⁰ 創設事業
	対企業マーケティング調査事業
	SOHO オフィス※ ¹¹ 拡大による企業集積促進事業
	情報基盤導入調査事業
新しいビジネスモデルで made in NAGAOKA の魅力を世界に発信する	地域資源活用型環境ビジネス育成・振興事業
	産学連携強化事業
	新エネルギー・クリーンエネルギー導入促進事業
	アンテナショップ※ ¹² などによる情報の受発信事業
市民チャレンジャーの成功と雇用を支える新たな起業促進の風をおこす	新たな手法による中小企業融資制度事業
	市民起業家創出支援事業
未来のエジソンを生む人材教育・人材育成の推進	まちづくり・ものづくり人材育成事業
	アントレプレナー人材教育カリキュラムの研究開発事業
	ながおか市民大学開催事業
	伝統の技・人育成事業
	学歴を超えた社会教育システム構築事業

(2) 地域らしさ価値Ⅱ：「元気に満ちた米産地」に向けた戦略的事業

重点実現項目	戦略的事業
「新ながおか元気印ブランド」の創造による「食の付加価値」の確立	食の安全・安心・環境保全推進事業
	新たな農業経営(アグリチャレンジ)支援事業
	農作物ブランド力強化支援事業
	農業景観整備事業
	集出荷貯蔵設備整備促進事業
おいしさと安全・健康をキーワードとする「新ながおか料理」の発信	新ながおかメニュー・もてなしのプログラムづくり事業
	女性パワーを活かした個性あるアグリビジネス※13 創出支援事業
	まごころを感じる食材生産地形成事業
虫が舞い、人の豊かな営みが展開する「食」「農」のユートピアを生み出す	地域における徹底した地域資源分析事業
	休耕田・荒廃地の活用促進事業
	生物資源循環促進事業
	農業・農村活性化に向けた環境整備促進事業
	里山再生による環境・景観保全活動のしくみづくり事業

(3) 地域らしさ価値Ⅲ：「世代がつながる安住都市」に向けた戦略的事業

重点実現項目	戦略的事業
「生きる楽しみ」「育つ喜び」が実感できる生活環境の創出	市民マーケティング※14 事業
	市議会情報発信促進事業
	多様な市民参画のしくみによる各種マスタープランづくりの促進
	公共サービス民間開放研究・開発事業
	市民・行政協働運営によるコミュニティの育成・強化事業
	NPO※15 支援NPO設立促進事業
	地域スポーツ活動推進事業
	アセットマネジメント※16 手法(資産管理)による道路施設維持管理システム導入事業
	雨水貯留槽設置補助事業
	地域支え合い、ふれあい事業(地域福祉ソフト事業)
「元気に老いる」熟年力を活かしたまちづくりの推進	健康づくり強化・推進事業
	介護予防事業
	熟年力活用伝統文化継承システム構築事業
	利便性向上による生涯学習機会拡大事業
	健康増進施設整備事業
	放送大学サテライト※17 長岡学習センター誘致事業
地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出	青少年体験型学習推進事業
	米百俵の精神を生かした教育環境整備事業
	若年層の社会参加促進事業
	歴史・文化の発掘・保存・発信システム構築事業
	図書館ネットワークシステム構築事業
	電子地図情報システム構築事業
	子どもエコセンター整備事業
	ジュニアスポーツ競技力向上事業
「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」の開発・推進	コミュニケーションを重視した地域学校教育プログラムメニュー開発事業
	「米百俵の精神」普及・啓発事業
	子育て支援機能強化事業
	子どものからだを丈夫にする食生活向上事業
	通学路の安全性向上事業
	こども王国整備事業

(4) 地域らしさ価値Ⅳ：「世界をつなぐ和らぎ交流都市」に向けた戦略的事業

重点実現項目	戦略的事業
地域資源を活用した新ながおかコンベンション・シティの創設	地域資源を活用したふれあい交流促進事業
	地域の人材活用によるもてなし体制・基盤強化事業
	コンベンションリサーチ・拠点整備事業
	ものづくり技術、製品などの情報発信事業
	新ながおか交流発信創設事業(道の駅等拠点施設整備)
	広域ネットワークパーク&ライド ^{※18} 整備事業
	グリーン・ツーリズム ^{※19} 推進事業
	文化財保全事業
すべての市民が「新ながおか親善大使」	新ながおか魅力発見イベント開催事業
	身近な信濃川としてのイメージづくり事業
	市民交流ネットワーク強化事業
	国際交流市民会議事業
	子ども親善大使育成事業
	駅周辺活性化事業
「暮らしたい」「働きたい」「遊びたい」…魅力あるまちを目指す	新市のシンボルとなる長岡駅周辺の中心市街地開発整備促進事業
	快適な都市生活を支える広域拠点シビックコア地区整備事業
	市民参画による地域固有の景観の発見など、地域分析・研究組織づくり事業
	景観・街なみ形成保全促進事業
	雪貯蔵活用施設研究開発事業
	地域景観周遊施設整備事業
	インターチェンジ整備推進事業
	施設再利用観光交流拠点整備事業

2. リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクトとは、前章で述べたように「合併後3年程度までに着手・実現でき、新市民と行政が新市を実感し、アピールできる事業」です。

建設計画掲載事業は、どれも新市建設にとって有益な事業ですが、そのすべてを同時に実行することはできません。

予測しにくい将来に向かっていくには、人々が「将来に向けて自分たちはうまく行っている」という強い気持ち（自己効力感）を持つことが大切です。新市のまちづくり（地域らしさ価値の向上）に向けては、自らの活動のなかで、どんな小さな事柄でも、成功または達成したという体験をなるべく早い機会に実感し、その気持ちを高めていくことが大切と考えられます。

そのため、戦略的事業の中でも、早期に着手可能かつ着手すべきもので、新市発足後3年程度の間一定の成果が見込める事業をリーディングプロジェクトとして設定しました。

このリーディングプロジェクトは、新市全体に広めていくものであるとともに、小さくとも確実な成功を積み重ねることによって、達成感を高め、新市建設に向けての動きを加速していく事業ともいえます。

今回設定した「戦略方針」別に整理し、それぞれについてまとめました。

(1) 地域らしさ価値Ⅰ：「独創企業が生まれ育つ都市」に関するリーディングプロジェクト

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>新ながおかが誇る技と人をネットワークする匠の国を創り上げる</p>	<p>行政が関連団体とのコーディネート役を担い、「技術」「人材」等のネットワークを構築する。</p>	<p>地域産業ブランド力強化事業</p> <p>地域資源のブランド化へ向けて、専門組織を育成したり、産業化への助成制度を実施するための調査研究を行う。</p> <p>⇒新錦鯉産業育成と錦鯉産業情報発信拠点整備を展開する。</p> <p>「錦鯉」を地域ブランドとして確立し、時代に即応した組織育成と基盤の強化を推進し、新市が誇る自然産業として発信する。</p> <p>ジョイントベンチャーネットワーク形成促進事業</p> <p>産業界、大学などの学術研究機関、工業技術総合研究所、商工会議所など複数の産業支援機関が混在する地域のメリットを活かし、産学官民の有機的なネットワークを形成する。</p> <p>⇒大学や商工会議所、研究機関が共同のホームページを作成したり、情報収集、情報交換を行う場を創設する。</p> <p>⇒地元企業の連携による共同開発の成果を、地域外へ積極的に発信していく。</p>
	<p>新技術や高付加価値製品の開発につながる機会創出や環境整備を行う。</p>	<p>テクノミッション創設事業</p> <p>新市全体を技術開発の実証実験の場として積極的に提供し、新技術や高付加価値製品の開発を促進・誘発させ、価値創造型都市として体制を確立する。</p> <p>⇒複数のセクションにまたがる行政手続きを一括して代行・支援したりすることができる全市の組織の創設と利用促進を図るためのPR活動を行う。</p> <p>⇒レーザー医療など先端技術、新分野での展開を目指す。</p> <p>対企業マーケティング調査事業</p> <p>新市に立地している企業が新技術開発や新たな市場を開拓できるように「面倒見の良い」体制を確立する。</p> <p>⇒新市に立地する企業に対して定期的に出向くなど、こまめなマーケティング活動を事業として行い、「企業活動のケア」「新たな挑戦への支援」などを行う。</p>
	<p>高速大容量情報通信網の強化など、産業地域としてのインセンティブを高める。</p>	<p>SOHO オフィス拡大による企業集積促進事業</p> <p>安価で快適なオフィスを提供する仕組みにより、新たな市場に挑戦していく起業家を応援するとともに、企業集積の促進を図る。</p> <p>⇒新たな起業家の集う施設として、高速通信網を備えたインキュベーション施設*20や SOHO オフィスを安価に提供する既存事業枠を拡大する。</p> <p>⇒企業集積を図るとともに情報交換を促進するなど産業地域としての気運の醸成を図る。</p>

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>新ながおかが誇る技と人をネットワークする匠の国を創り上げる</p>	<p>高速大容量情報通信網の強化など、産業地域としてのインセンティブを高める。</p>	<p>情報基盤導入調査事業 首都圏と変わらない情報基盤環境を生み出すために調査活動を行う。 ⇒長岡地域の既存の集積製造業および新規参入の産業にとって、産業の高度化に必要な不可欠な情報基盤の内容・導入方法について調査を行う。</p>
<p>新しいビジネスモデルで made in NAGAOKA の魅力を世界に発信する</p>	<p>ビジネスモデル開発を促進するための行政の支援機能の発揮と、産学連携などの体制整備を図る。</p>	<p>地域資源活用型環境ビジネス育成・振興事業 長岡技術科学大学「グリーンエネルギー革命による環境再生」など地域の資源を活用した長岡ならではの環境ビジネス育成を行う。 ⇒バイオマス、太陽光等の地域資源を活用した新エネルギー産業の育成を行うとともに新エネルギー技術の開発、ビジネスモデル化を支援する。 ⇒エコマネー※21を活用した資源回収システムの開発に取り組む。</p> <p>産学連携強化事業 大学や研究機関の立地を活かした産学連携を強化し、長岡地域のコア技術を創出する。 ⇒大学・研究機関などからの企業への技術移転を促進する取り組みを強化する。 ⇒学生がパイプ役となり大学と企業の連携強化を図るインターンシップ※22を展開する。</p>
<p>市民チャレンジャーの成功と雇用を支える新たな起業促進の風をおこす</p>	<p>ベンチャー企業や NPO などを含む新たな雇用を創出する起業家への支援強化を促進する。</p>	<p>新エネルギー・クリーンエネルギー導入促進事業 天然ガスなどを用いた新エネルギー・クリーンエネルギーの導入促進や環境に配慮した製品の積極的な活用を図る。 ⇒電気・天然ガス自動車など、新エネルギー設備を公共施設へ積極的に導入するとともに、助成制度を創設し、環境に配慮した製品の活用を促進する。</p> <p>新たな手法による中小企業融資制度事業 将来性や技術力はあるのに金融機関からの借り入れが困難な中小企業をバックアップする。 ⇒事業者の持つ技術や将来性に着目し、円滑な資金調達を可能とする柔軟な融資制度を新たに創設する。</p> <p>市民起業家創出支援事業 地域が抱える課題やニーズをビジネスの手法で解決することができる市民起業家を支援する。 ⇒人材の発掘と組織化や経営指導などを支援する。 ⇒行政や民間の手が届きにくいニッチな市場※23 をターゲットとした起業家の成功モデルを構築する。</p>

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>未来のエジソンを生む人材教育・人材育成の推進</p>	<p>「自分探し」を模索できる機会を提供し、開拓者精神と自立心の醸成を図る人材教育(アントレプレナー教育など)の仕組みづくりを行う。</p>	<p>まちづくり・ものづくり人材育成事業</p> <p>将来の地域産業を担う若者を育成するとともに、それらの発想を産業に活かす仕組みをつくり、地域に根ざした産業の創造を図る。</p> <p>⇒長岡デザインフェアを活用し、産業教育を促進する。</p> <p>⇒熟練技術者を小、中、高校に派遣するなどの地域の歴史・文化・伝統を重視した体験プログラムをつくる。</p> <p>アントレプレナー人材教育カリキュラムの研究開発事業</p> <p>産業・教育分野を中心とした民間企業との連携による起業家育成の研究・開発を行う。</p> <p>⇒アントレプレナーを誘発する教育現場での地域起業家の講演機会を創設する。</p> <p>⇒アントレプレナー人材教育を希望する中高生の募集活動を行う。</p> <p>⇒長期にわたる教員の企業活動交流体験機会の創出による人材教育環境を強化する。</p>
	<p>再学習機会の創出など、どの年代層からでも産業革新に貢献できる人材を育成する社会システムを構築する。</p>	<p>ながおか市民大学開催事業</p> <p>どの年代層からでも再学習の機会を創出し、人材育成を推進する。</p> <p>⇒公開講座を開設するに当たっては、市民ニーズを反映させるために企画・運営を市民団体が担ったり、県内外の高等教育機関に協力を要請したりすることにより、講座分野の多様化を図る。</p>
	<p>再学習機会の創出など、どの年代層からでも産業革新に貢献できる人材を育成する社会システムを構築する。</p>	<p>伝統の技・人育成事業</p> <p>地域の伝統産業を受け継ぐため、情報発信と受け入れ体制づくりを行うことにより、「ものづくり」の産地を確固たるものとし、地域の誇りとして次代につなぐ人材育成を行う。</p> <p>⇒醸造業、鋸、農業など伝統地場産業について情報発信し、杜氏や鍛冶職人などを目指す人々を対象とした研修者の受け入れ体制を整備する。</p> <p>⇒伝統地場産業の歴史と体験作業を通じた、児童・生徒に対する総合学習の場を提供する。</p>
	<p>再学習機会の創出など、どの年代層からでも産業革新に貢献できる人材を育成する社会システムを構築する。</p>	<p>学歴を超えた社会教育システム構築事業</p> <p>地域の人材をこれまで以上に幅広く発掘するため、従来の社会教育の枠組みによらないリカレント^{※24}教育の仕組みを構築する。</p> <p>⇒大学卒業などの既往の学歴枠によらず、専門学校や短大卒などからでも修士号を取得できるシステムづくりを目指した活動を推進する。</p>

(2) 地域らしさ価値Ⅱ：「元気に満ちた米産地」に関するリーディングプロジェクト

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>「新ながおか元気印ブランド」の創造による「食の付加価値」の確立</p>	<p>「元気印＝健康とおいしさ」という長岡農産物のブランド力を支える農家・生産組織の意識喚起や、土づくり活動などの推進を図る。</p>	<p>食の安全・安心・環境保全推進事業 消費者が安心して信頼できる米などの作物の生産と環境保全型農業の取り組みを促進する。 ⇒主要農産物の安全性確保のため、農薬等残留検査や栽培履歴の充実を促進する。 ⇒土壌・水質診断や土づくりの促進を拡大する。</p> <p>新たな農業経営(アグリチャレンジ)支援事業 生産・流通・販売などの新たな農業分野への挑戦を支援するためのシステムを構築し、地域農業を支える経営体の体質強化を図る。 ⇒農業プロ養成講座の新分野を開拓する。 ⇒新たな農業部門への進出や加工事業の展開、販売方式の導入などの新たな農業分野への取り組みを支援する。</p>
	<p>長岡特産農産物の「元気印＝健康とおいしさ」というブランド力の強化活動を行う。</p>	<p>農作物ブランド力強化支援事業 米以外の農産物についても、消費者の嗜好に即応した農作物を生産することにより、ブランド力の強化を図る。 ⇒ブランド化への意識醸成と実践へのシステムをつくる。 ⇒生産者・農業団体・関係機関等の連携体制の整備や販路拡大への支援を行う。</p>
<p>おいしさと安全・健康をキーワードとする「新ながおか料理」の発信</p>	<p>地元食材を活用した長岡でしか味わえない新しい郷土料理や健康メニュー、特産品の開発を行う。</p>	<p>新ながおかメニュー・もてなしのプログラムづくり事業 都市と農村、生産者と消費者などの交流と連携の促進を通じ新しい長岡メニューを発信する。 ⇒農業フェスティバル、体験イベントを充実させるとともに、農業者だけでなく市民の参加によりもてなしの体制を整え、伝統料理の発掘、名物料理・特産品の開発を行う。</p> <p>女性パワーを活かした個性あるアグリビジネス創出・支援事業 女性の感性を活かしたアグリビジネス創出に向けて、情報発信、開業を支援する。 ⇒女性を中心とした地域活動団体の把握と出店希望の募集活動を行う。 ⇒市街地内でのアグリビジネス創出テナントでの出店を促進する。</p>

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>おいしさと安全・健康をキーワードとする「新ながおか料理」の発信</p>	<p>地産地消などを体系化し、安全・健康食材生産地域としての“ながおか”を発信する。</p>	<p>まごころを感じる食材生産地形成事業</p> <p>地元産の新鮮でおいしい野菜やお米を積極的に消費する仕組みをつくり、地域がまごころの食材を育てる取り組みを行う。</p> <p>⇒学校給食への地元食材の導入促進による地産地消を推進する。</p> <p>⇒農作業体験などを通じた生産者と消費者とのコミュニティ活動を促進する。</p> <p>⇒生産者自らの地元産野菜などの直売促進により、まごころの通う食材発信の仕組みづくりを行う。</p>
<p>蛸が舞い、人の豊かな営みが展開する「食」「農」のユートピアを生み出す</p>	<p>潜在的な地域資源の宝庫である農村や中山間地域に対する意識の醸成と、農産物生産の人材ネットワーク形成を図る。</p> <p>大都市圏からの来訪者受け入れ体制を整備し、来訪者を含めた地域全体で進める環境・景観保全活動の仕組みづくりを行う。</p>	<p>地域における徹底した地域資源分析事業</p> <p>⇒専門家も含めたメンバーにより、農業・林業・自然空間・生活スタイル・人材・文化を洗い出し、課題を整理するなど、徹底した地域分析を実施する。</p> <p>休耕田・荒廃地の活用促進事業 (中山間地・地域活力創造事業)</p> <p>⇒都会人と中山間地域の人々との交流を推進し、中山間地域の耕作放棄された農地の有効活用を図る。</p> <p>(三島地域で先行的に取り組む)</p> <p>生物資源循環促進事業</p> <p>地球環境を視野に入れた生産者と消費者の協働を進め、生物資源循環型社会の形成を図る。</p> <p>⇒生ごみなどの生活面での資源回収システムを開発する。</p> <p>⇒農畜連携による資源循環型農業を推進する。</p> <p>⇒堆肥プラント等の整備を促進する。</p> <p>農業・農村活性化に向けた環境整備促進事業</p> <p>多様な地域条件・特性を踏まえ、ハードとソフトの両面から農業・農村の活性化を推進するための地域循環型の環境整備を行う。</p> <p>⇒地域の多様な環境特性や景観資源に配慮した、生産・消費・生活のシステムをつくる。</p> <p>⇒農家や住民主導による来訪者の地域受け入れ体制づくり等を支援する。</p> <p>⇒地域の維持再生を目指す担い手の確保・育成を行う。</p> <p>里山再生による環境・景観保全活動のしくみづくり事業</p> <p>里山を地域の資源として大切に守り豊かな自然景観の保全を促進する。</p> <p>⇒多様な交流活動を通じた、里山の多面的な維持や管理、遊歩道整備などを行う。</p>

(3) 地域らしさ価値Ⅲ：「世代がつながる安住都市」に関するリーディングプロジェクト

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>「生きる楽しみ」 「育つ喜び」が実感できる生活環境の創出</p>	<p>市民の声や想いを集める仕組みや地域社会などの情報収集・情報交換の仕組みを確立する。</p>	<p>市民マーケティング事業 市民主体の地域づくりを行うために、企業のマーケティング手法を導入した取り組みを推進する。 ⇒市政モニター制度の拡充などの市民生活マーケティング活動の強化を図る。</p>
		<p>市議会情報発信促進事業 議会の情報をできるだけ多く発信する仕組みをつくる。 ⇒インターネットなどによる議会生中継配信システムを構築する。</p>
		<p>多様な市民参画のしくみによるマスタープランづくりの促進 各種計画づくりに、多様な市民の声や想いを反映することができる市民参画の仕組みをつくる。 ⇒新エネルギービジョン、都市計画マスタープラン策定などを市民全体で進める。</p>
	<p>市民と行政の協働運営によるコミュニティの創出・育成を図る。</p>	<p>公共サービス民間開放研究・開発事業 公共施設の管理運営業務を民間に委託し、民間のノウハウを導入しサービスの向上とコスト削減を両立する。 ⇒図書館、体育館、スキー場などの管理運営の民間委託を検討し、積極的に推進する。</p>
		<p>市民・行政協働運営によるコミュニティの育成・強化事業 「自分たちのまちは自分たちでつくる」地域主体のまちづくりに向けた基本的な体制づくりを促進する。 ⇒コミュニティ創出のための支援を強化する。 ⇒地域コミュニティ拠点整備事業を展開する。 (中之島・三島・越路地域で先行的に取り組む)</p>
		<p>NPO 支援 NPO 設立促進事業 個別の地域活動を行っている NPO などの各種団体の活動を支援する NPO の設立を促進していく。 ⇒NPO を支援したり、NPO の設立に向けた協議の場づくりや人材派遣などの支援体制の強化を図る。 ⇒各種セミナーの開催などによる地域人材の育成を促進する。</p>

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>「元気に老いる」 熟年力を活かした まちづくりの推進</p>	<p>コミュニティスポーツや介護予防の推進など、元気に老いるために社会人が健康づくりをしやすい環境を整備する。</p>	<p>健康づくり強化・推進事業 健やかで心豊かな生活ができるよう、将来を見据えた健康づくり活動を進める。 ⇒個人の健康づくりを地域が支えていくための仕組みをつくる。(ヘルシープラン21の全市的展開) ⇒屋内多目的スポーツ施設整備事業を展開する。 (三島地域で先行的に取り組む) ⇒地域の健康づくり、福祉活動の拠点となる総合的な施設整備事業を展開する。 (中之島、小国地域で先行的に取り組む)</p> <p>介護予防事業 急速な高齢社会に向けて高齢期の健康状態を保つ仕組みをボランティア等との連携で構築する。 ⇒介護予防プランの作成や介護予防活動を充実させる。 ⇒介護予防に関するパワーリハビリテーション※25などを開発・促進する。</p>
	<p>熟年層からの職業意識形成や熟年の経験を生かした活動場所づくりなどによる高齢者ライフの活性化を図る。</p>	<p>熟年力活用伝統文化継承システム構築事業 熟年層において、ひとつの伝承文化・技能を修得することで、現在継承が困難とされている伝統文化・技能の保全を図っていく。 ⇒熟年力を活用した伝統文化・伝統技術の継承システムをつくる。</p> <p>利便性向上による生涯学習機会拡大事業 ⇒既存施設や空き店舗を活用し、利用しやすさを向上させることで、生涯学習の気運を高めていく。</p>
	<p>小・中学生の才能を地域で伸ばす仕組みづくりと活動を強化する。</p>	<p>青少年体験型学習推進事業 青少年がさまざまな科学体験や自然体験ができ、豊かな感性や創造性を育むことができる環境を整備する。 ⇒自然・スポーツ・科学などをテーマとした多様な体験学習システムをつくる。 ⇒地域資源を活用した拠点・施設の整備を展開する。</p> <p>米百俵の精神を生かした教育環境整備事業 ⇒次代を担う子どもたちの可能性を最大限に伸ばすために、教育特区※26取得などにより、子どもたちのさまざまな夢・思いをかなえる多様な教育を推進していく。</p>

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出</p>	<p>若年層の豊かな発想を社会に反映させる仕組みづくりを行う。</p>	<p>若年層の社会参加促進事業 高校生から20代前半までの若年層の自由な発想と想像力をまちづくりに活かしていく。 ⇒空き店舗、オープンスペースを活用した「若者まちづくり大学」等を開設する。 ⇒若年層の自由な発想・想像力を生かす仕組みを開発することで、長岡駅周辺市街地のにぎわいを創出する。</p>
	<p>伝統文化を継承・発信し、未来人を育てる文教都市づくりを推進する。</p>	<p>歴史・文化の発掘・保存・発信システム構築事業 地域の貴重な歴史・文化などの地域の宝をデジタル技術を使って保存し、次の世代に伝えていく。 ⇒資料保存管理システムの充実を図る。 ⇒地域に散在する言い伝え、写真、8ミリフィルムなどの情報・資料を積極的に収集し、デジタル保存する地域デジタルアーカイブス^{※27}事業を展開する。</p> <p>図書館ネットワークシステム構築事業 図書館の広域的利用を推進するためにネットワークシステムを構築する。</p> <p>電子地図情報システム構築事業 空間地理情報データベースにより、業務、研究、教育等における知識を地域住民が共有できる環境を整備する。 ⇒人々の想いをデータベース^{※28}に書き込むことにより、地域住民の声を蓄積し、時代を超えた地域づくりの貴重な財産としていく双方向蓄積型データベースをつくる。</p>
<p>「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」の開発・推進</p>	<p>米百俵の精神に基づく地域住民による地域学校教育プログラムの開発と実践を行う。 「21世紀米百俵プログラム」=学校と地域でつくるコミュニケーション(話し合い)教育プログラムの開発</p>	<p>コミュニケーションを重視した地域学校教育プログラムメニュー開発事業 “既成の価値観に基づく知識伝達の教育”から、“子ども一人ひとりの自分史に基づいた体験的な知識会得を重視した教育”を目指した教育プログラムづくりを行う。 ⇒教師・地域住民・子どもからなる、大人と子どものコミュニケーション教育プログラムを開発する。 ⇒地域資源、伝統文化との触れ合いを体験する、子どもと大人が共に育つ場を創出する。</p> <p>「米百俵の精神」普及・啓発事業 脈々と受け継がれてきた「米百俵の精神」のもと、生涯にわたる人づくり活動に対して各種支援事業の強化を図る。 ⇒大学進学者への奨学金貸付枠を拡大するとともに、地域限定版米百俵賞(新市域を対象)を創設する。</p>

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」の開発・推進</p>	<p>安全・安心な子育てを追求する環境づくりを行う。</p>	<p>子育て支援機能強化事業 地域コミュニティや民間活力などを活用し、子育て支援機能を強化していく。 ⇒放課後児童クラブの機能を拡充させる。 ⇒既存幼稚園活用等によって幼保一体型総合施設機能を強化する。 ⇒子育てサークルへの保育士派遣を支援する。 ⇒マーケティング調査により特別保育専用施設整備を推進する。 ⇒高齢者の子育て力を活かした世代間交流施設を整備する。 (中之島地域で先行的に取り組む)</p>
		<p>子どものからだを丈夫にする食生活向上事業 子どもの成長に合わせた食生活のアドバイスを親子に行い、子どもの丈夫な体をつくる。 ⇒小・中学校へ子ども食生活アドバイザーを配置して、食生活の大切さを教育し、親子と学校で一体となった活動を行う。</p>
		<p>通学路の安全性向上事業 安心して学校へ通える安全な通学路の確保に地域と学校が一体となって取り組んでいく。 ⇒冬季の通学路の安全性を確保するため、除雪路線の延伸と消雪パイプ等融雪施設の整備を行う。</p>

(4) 地域らしさ価値Ⅳ：「世界をつなぐ和らぎ交流都市」に関するリーディングプロジェクト

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>地域資源を活用した新ながおかコンベンション・サイトの創設</p>	<p>新市の伝統や地域資源を活用した特色あるふれあい交流活動を追求する。</p>	<p>地域資源を活用したふれあい交流促進事業 長岡地域が日本・世界に誇れる地域資源を活かし、来訪者と地域住民との心の通う交流を促進する。 ⇒長岡まつりを核とした地域まつりネットワークを構築する。 ⇒旅行会社との連携による観光ツアーの開発、PRを促進する。 ⇒国重要文化財・長谷川邸越路歴史館整備事業を推進する。 ⇒闘牛場および周辺環境整備事業を推進する。 ⇒古志の里整備事業を推進する。 ⇒へんなかツーリズム拠点整備事業を推進する。</p> <p>地域の人材活用によるもてなし体制・基盤強化事業 地域の豊かな自然・資源・人材を活かして、もてなしのための基盤整備を推進していく。 ⇒各地域の文化や伝統芸能体験メニューを開発する。 ⇒地域を案内する“地域の達人”を組織化する。 ⇒体験モニター制度等によるもてなし体制を強化する。 ⇒ネットワークづくりから、活動拠点となる施設整備等への展開を図る。</p>
	<p>民間活力や様々な人材を活かしたコンベンションの仕組みを強化する。</p>	<p>コンベンションリサーチ・拠点整備事業 ⇒新長岡ならではのコンベンションのあり方、地域内での適地選定など、中核となる施設やコンベンション・システムについての調査、研究を促進する。 ⇒コンベンション拠点整備事業への展開を図る。</p> <p>ものづくり技術、製品などの情報発信事業 新市の歴史と文化に培われた伝統産業や、地域の貴重な資源である産業技術等を、世界市場に向けて発信する。 ⇒技術・製品の紹介と合わせた企業情報や、新市の産業施策などを発信する総合サイトを構築する。</p>
<p>すべての市民が「新ながおか親善大使」</p>	<p>住民の地域に対する愛着・意識形成と、それに基づく市民レベルの交流の活性化を促進する。</p>	<p>新ながおか魅力発見イベントの開催事業 新市に愛着と誇りを感じるきっかけづくりとして各種イベントを開催し、市民の一体感醸成を図る。 ⇒各地域の歴史や文化、施設、特産物を探訪する「ながおかのまち発見ツアー」を拡充する。 ⇒各地域の特性を活かしたスポーツイベント「ツール・ド・NAGAOKA」など独創的なイベントを企画・実施する。</p>

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>すべての市民が「新ながおか親善大使」</p>	<p>住民の地域に対する愛着・意識形成と、それに基づく市民レベルの交流の活性化を促進する。</p>	<p>身近な信濃川としてのイメージづくり事業</p> <p>信濃川の自然環境を活用しながら、新たな交流の場を生み出す集いの場を形成する。</p> <p>⇒信濃川を活用したハイキングコースやサイクリングコース設置などの交流施策を促進する。</p> <p>(中之島地域で信濃リバーサイドパークとして先行的に取り組む)</p>
		<p>市民交流ネットワーク強化事業</p> <p>各地域の伝統文化・風土・人柄について理解を深める市民同士の交流を促進し各地域の資源を発掘していく。</p> <p>⇒公民館の連携による地域資源発掘活動を推進する。</p> <p>⇒ホームステイ(民泊)ネットワークづくりと交流活動への支援を行う。</p> <p>⇒既存施設を活用した芸術・文化体験プログラムを開発する。</p>
		<p>国際交流市民会議事業</p> <p>在住外国人も市政に参加できる仕組みづくりにより外国人が来訪しやすいまちを目指す。</p> <p>⇒国境を越えた市民の交流・意見交換の促進による全市民交流機会を創出する。</p> <p>⇒市民国際交流拠点整備への展開を図る。</p>
<p>「暮らしたい」「働きたい」「遊びたい」・・・魅力あるまちを目指す</p>	<p>青少年活動を通じ“世界”へ“NAGAOKA”を発信する。</p> <p>にぎわいを創出するための柔軟なまちづくりの仕組みを開発する。(市民活力を誘発する社会資本整備)</p>	<p>子ども親善大使育成事業</p> <p>国際理解教育が進められているなかで、小中学生がより身近に世界を感じることができる環境を整備していく。</p> <p>⇒環日本海、東南アジアこども会議を開催する。</p> <p>⇒テレビ電話システムを活用した青少年国際会議を開催する。</p> <p>新市のシンボルとなる 長岡駅周辺の中心市街地開発整備促進事業</p> <p>長岡駅周辺の中心市街地を、民間や市民活力を活かす柔軟なまちづくりの仕組みにより、新市のシンボル空間として整備促進を図る。</p> <p>⇒新たな市民力の拠点としての厚生会館地区や新市の顔としての駅前広場をはじめとした長岡駅周辺市街地の再整備を促進する。</p> <p>⇒民間活力を活かした市街地再開発事業などの都市開発事業を促進する。</p> <p>⇒民間企業の立地ニーズ調査や柔軟なまちづくりの仕組みにより、にぎわいを創出する企業立地を促進し、中心市街地の「低・未利用地」などの開発促進と高度活用を図る。</p>

重点実現項目	戦略方針	リーディングプロジェクト
<p>「暮らしたい」「働きたい」「遊びたい」・・・魅力あるまちを目指す</p>	<p>にぎわいを創出するための柔軟なまちづくりの仕組みを開発する。(市民活力を誘発する社会資本整備)</p>	<p>快適な都市生活を支える広域拠点シビックコア地区整備事業 駅前中心市街地との連携と機能分担を図りながらシビックコア地区に、市民に開かれた広域行政サービス拠点、日常的な賑わいが感じられる交流拠点、市民防災拠点を整備する。 ⇒国の合同庁舎等の整備により広域市民行政サービスの充実を図る。 ⇒中心市街地の緑豊かな安らぎ空間と防災機能を備えた公園を整備する。 ⇒消防本部、防災センター、防災対応型公園の整備により安全・安心な市民防災拠点を形成する。 ⇒民間活力により都市型集合住宅の整備を促進する。</p>
	<p>市民参画による地域資源を活用した市民が愛着と誇りを持てる景観形成の仕組みづくりを行う。</p>	<p>市民参画による地域固有の景観の発見など、地域分析・研究組織づくり事業 地域限定的であった景観・歴史・文化資源を総合的に情報発信することにより、新市の新たな地域価値の活用促進を図っていく。 ⇒景観や歴史物など、新たな地域価値を地域の人々が発見し、活用を促進するとともに、研究グループを組織化する。</p> <p>景観・街なみ形成保全促進事業 歴史的な価値のある街なみや建物などを地域と一体となって形成・保全をしていく。 ⇒棚田景観、雁木の街なみ、蔵のまちなど、地域住民とともに景観財産の保全や整備を促進していく。</p>

3. リーディングプロジェクト以外の事業概要

新市発足後3年間はリーディングプロジェクトによって着実な成果をあげることに努め、その効果や有効性を十分に見極めた後、その時点での財政状況や社会状況を考慮し、4年目からはその他の戦略的事業を含めた新たな展開をしていくことになります。

45 ページにおいて「戦略的事業一覧」に対象となる事業名は紹介していますが、リーディングプロジェクト以外の事業概要は以下のとおりです。

地域らしさ価値	重点実現項目	戦略的事業
独創企業が生まれ育つ都市	新しいビジネスモデルで made in NAGAOKA の魅力を世界に発信する	アンテナショップなどによる情報の受発信事業 ⇒東京を拠点とした、世界に向けた地域ブランド物産の発信を促進する。
元気に満ちた米産地	「新ながおか元気印ブランド」の創造による「食の付加価値」の確立	農業景観整備事業 ⇒田園、棚田などの景観整備、展望箇所の整備などを行う。 集出荷貯蔵設備整備促進事業
世代がつながる安住都市	「生きる楽しみ」「育つ喜び」が実感できる生活環境の創出	地域スポーツ活動推進事業 ⇒コミュニティを活用したスポーツクラブの開設・運営などをするための人材育成を推進する。
		アセットマネジメント手法(資産管理)による道路施設維持管理システム導入事業 ⇒市道橋の維持管理データベース化と道路施設へのシステム展開を推進する。
		雨水貯留槽設置補助事業 ⇒長岡の合流区域、稲葉川流域を対象とし、事業を展開する。
		地域支え合い、ふれあい事業(地域福祉ソフト事業) ⇒在宅サービス(保健・機能訓練、介護予防、障害者福祉)等、地域福祉のシステムづくりを構築する。 ⇒福祉教育への取り組み、大学誘致などによる地域福祉の基盤を強化する。
	「元気に老いる」熟年力を活かしたまちづくりの推進	健康増進施設整備事業 ⇒スポーツ施設、自転車・歩行者専用道など、市民の健康づくり活動拠点を整備する。 放送大学サテライト長岡学習センター誘致事業 ⇒放送大学サテライト学習センターの誘致を図る。
地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出	子どもエコセンター整備事業 ⇒自然エネルギー実験場的施設とビオトープ※29 の整備など、環境教育の拠点機能を整備する。 ジュニアスポーツ競技力向上事業 ⇒地域別、種目別の優秀競技者の育成・強化システムをつくる。	

地域らしさ価値	重点実現項目	戦略的事業
世代がつながる 安住都市	「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」の開発・推進	こども王国整備事業 ⇒子育て支援策としての幼児遊び場機能構築、子どもの体力・運動能力向上策としての冬でも遊べる公園整備等、新たな公園概念を具現化する。
世界をつなぐ和らぎ交流都市	地域資源を活用した新ながおかコンベンション・シティの創設	新ながおか交流発信創設事業(道の駅等拠点施設整備) ⇒多様な民間活力や市民力を活用した、インフォメーション・交流拠点を整備する。
		広域ネットワークパーク&ライド整備事業 ⇒インターチェンジ周辺における高速バス運行会社と連携したパーク&ライド機能を構築する。
		グリーン・ツーリズム推進事業 ⇒グリーン・ツーリズムの促進に向けた人材育成や養成、利用者のニーズに対応した拠点整備などを推進・展開する。
		文化財保全事業 ⇒地域の文化財の修復・セキュリティ強化などを促進する。
	すべての市民が「新ながおか親善大使」	駅周辺活性化事業 ⇒人にやさしい(バリアフリー化)、わかりやすい駅づくりを推進する。 (JR来迎寺駅周辺を先行的に取り組む)
	「暮らしたい」「働きたい」「遊びたい」…魅力あるまちを目指す	雪貯蔵活用施設研究開発事業 ⇒雪を活用した夏季イベントの開発や、雪冷房などの研究事業を推進する。 (山古志地域で先行的に取り組む)
		地域景観周遊施設整備事業 ⇒地域の自然・景観体験コースの設定と、景観ポイントの整備を促進する。
インターチェンジ整備推進事業 ⇒越路・長岡南インターチェンジの整備に向けて、関係機関との調整を図る。 施設再利用観光交流拠点整備事業 ⇒既存施設のリニューアルによる観光・交流拠点機能の拡充を図る。 (あまやち会館周辺整備事業を先行的に取り組む)		

第5章 新市建設の施策2 生活基盤整備(ナショナルミニマム)事業～安心感の形成

住民が必要な行政サービスを享受し、安心して暮らしていくために、新市の生活基盤を整備していくことは行政の重要課題であり、生活基盤整備（ナショナルミニマム）事業はそのために行われるものです。生活基盤としての必要性や住民の満足度向上に貢献するものを登載事業として設定し、地域的に整備が遅れているものなどを重視しています。また、ここでいうナショナルミニマムとは最低限をいうものでなく、均衡ある発展と市民の視点での必要不可欠な生活基盤のレベルを見極めて進めていくべきものとしての意味が込められています。

なお、事業実施に当たっては、その必要性や緊急性を個別に判断したうえで、順次、事業に着手することになります。

※ 各地域の継続的(工事等着手済み)事業については、新市でも引き続き実施していきます。

分野		主要な事業内容
居住環境	区画整理	区画整理事業の実施 ⇒良好な宅地の供給を図り、計画的に市街地整備を行う。
	上下水道	上水道施設の整備・改良 ⇒安全で安定した水の供給を行っていく。 簡易水道の整備 ⇒簡易水道の水質改善を図り、安全で安定した水の供給を行っていく。 公共下水道施設・雨水排水施設の整備・改良 ⇒河川などの水域の水質を良好なものとし、快適な生活環境や米産地が必要とする良質な水するために汚水管の新設や老朽管などの改善を行っていく。 (整備率が低い中之島地域を重点的に整備) ⇒都市型の水害を解消し、良好な住環境を保つために雨水施設を整備する。 浄化センターの整備 ⇒下水道は都市の重要なライフラインであることから、その処理場の耐震性の強化や改築更新を行っていく。 浄化槽の整備 ⇒公共下水道区域以外の地区で合併浄化槽の整備を行っていく。
	住居	公営住宅の整備・住宅供給の推進 ⇒若者定住促進や地域活動を促進する機能を併設した公営住宅を整備していく。また、老朽化したものは、バリアフリー対応のものに建て替えていく。

分野		主要な事業内容
居住環境	快適な生活への取り組み	<p>生活交通の継続確保・充実 ⇒生活バス路線を確保し、子どもや高齢者が公共・公益施設などを気軽に利用できる地域にしていく。</p> <p>情報基盤の整備 ⇒長岡地域全体において情報格差を解消し、情報化社会に対応していく。 (整備が遅れている山古志地域から順次整備を図る。)</p>
	美しい景観・レクリエーション	<p>公園・緑道・緑化などの推進 ⇒誰もが身近に利用できる公園や子どもたちが安心して使える公園、健康増進に散策できる緑道などを整備していく。</p>
	斎場・墓園	<p>斎場の整備 ⇒周辺環境と調和し、人生終焉の場にふさわしい厳粛さを持った施設を新長岡市全体を見据えて整備を行う。</p> <p>墓園の整備 ⇒墓地が不足しているところに対し、安住都市にふさわしい環境重視の墓園を整備する。</p>
	環境	<p>廃棄物最終処分場の整備 ⇒既存の埋立地の限界予測から周辺環境に配慮した新たな廃棄物最終処分場を整備する。</p>
道路整備	<p>都市計画道路など幹線道路の整備 ⇒都市基盤の根幹的施設となる都市計画道路などの幹線道路を災害に強い安心で快適な空間として整備し、都市機能の充実や交通ネットワークの形成を図っていく。</p> <p>生活関連道路の整備・改修 ⇒生活者の視点に立ち、歩道設置や車道拡幅などで安全で安心な生活を送ることができる生活道路を整備していく。</p> <p>除雪・融雪施設の整備・改修 ⇒冬季でも安心できる生活を確保するため、除雪基地や融雪施設の整備など除雪体制を強化し、総合的な整備を図っていく。</p>	

分野	主要な事業内容
福祉	<p>福祉施設の整備 ⇒市民が福祉活動に携わることのできる拠点整備や、福祉作業所の改築・新設など障害者がより積極的に社会参加するための訓練施設などの整備を図っていく。</p> <p>介護保険施設の整備 ⇒特別養護老人ホーム、グループホームなどを整備し、入所待機者の解消を図っていく。 (整備が遅れている中之島地域で特別養護老人ホームの整備を促進していく。)</p> <p>バリアフリー化の推進 ⇒高齢者や身体障害者の移動にかかる負担軽減と利便性の向上を図るために、歩道改築やノンステップバスなどの導入を進め、都市機能の充実を図っていく。</p>
産業基盤	<p>農業基盤の整備 ⇒ほ場整備事業と併せて幹線農道や基幹的農業水利施設、排水施設など農業生産基盤の一体的な整備を図っていく。</p> <p>産業道路のネットワーク整備 ⇒既存工業団地内道路のアクセス強化や利便性向上を図っていく。</p> <p>林道の整備 ⇒広域的な連携を視野に入れた林道を整備していく。</p>
教育	<p>児童館の整備 ⇒児童の学校以外での学びの場や、地域と子どもの交流の場として児童館の整備を図っていく。</p> <p>安全性の向上のための学校改築の推進 ⇒災害に対し安全・安心な教育環境を整備するとともに、老朽化校舎の改築を段階的に実施していき、教育機能低下の改善を図りながら、新しい時代に向けた教育活動の環境を整備していく。</p> <p>学校施設の充実 ⇒グラウンドなどのスポーツ環境の整備充実を図るなど、学校施設の充実を図っていく。</p> <p>学校図書の実充 ⇒各学校間の整備率の格差をなくし、多様な教育活動を支援するための資料の整備を行っていく。</p> <p>学校間情報ネットワークの整備・充実 ⇒新市の小中学校全体で学習情報ネットワークを構築し、学校相互に学習活動、情報交換・共有ができるようにしていく。</p>

分野	主要な事業内容
文化・スポーツ	<p>図書館の整備 ⇒図書館ネットワークと併せて誰もが利用しやすい図書館を整備していく。</p> <p>劇場の機能再生 ⇒館内のバリアフリー化を図り、合併後、多くの市民から文化活動を楽しんでもらうために設備の改修を順次行う。</p> <p>体育施設の整備 ⇒地域スポーツ活動やコミュニティ活動を充実するために、老朽化した体育館の改築や新設などの体育施設の整備を行う。</p>

第6章 新市建設の施策3 合併に伴い必要となる事業～一体感の形成

現在、6市町村の間では公共施設等の案内標識や公共情報ネットワークのシステムなどが異なる方式で運用されているものがあります。新市発足後は、これらの方式やシステムを統一するとともに、各市町村で別々に行われている各種の防災・防犯施策などを統合し、効率的かつ一体的に活動ができるように整備する必要があります。また市町村合併は、行政の抜本的な改革や、今後の活用が期待される情報システムを活用した住民サービスなどを開始する契機でもあります。

このような観点から合併に伴い必要となる事業を、緊急性の高い防犯・防災分野事業と情報化促進事業、そして合併を契機とする取り組み事業の3分野に分けています。なお、これらの事業においても、生活基盤整備（ナショナルミニマム）事業と同じく、その必要性や緊急性を個別に判断したうえで、順次、事業に着手することになります。

分野	主要な事業内容
<p>防災体制の充実と防犯活動の促進</p>	<p>消防施設の整備、装備の充実 ⇒合併により消防救急サービスの均衡を図るため、消防本部庁舎や出張所の機能増強や、消防車、救急車などの装備充実、消防水利の整備等を行い、都市の安全性の向上を図っていく。</p> <p>備蓄物資・保管場所の整備 ⇒被災時の生活必需品備蓄を新市全体に拡大し、物資保管場所を適切に分散確保することにより、防災対策を充実し新市の安心感を高めていく。</p> <p>移動系防災行政用無線の統廃合の実施 ⇒各市町村単位のみでしか使用できない防災無線システムの統合により、防災通信網を一体化し、災害に強いまちづくりを進めていく。</p> <p>防災用気象情報提供システムの整備 ⇒気象予測情報ポイントを全市域に拡大し、その情報を各支所でも受けることができるように防災体制を強化していく。</p> <p>雨量観測システムの整備 ⇒局地的降雨による災害に対応するため、観測対象範囲を新市域に拡大する。</p> <p>市民への災害情報伝達システムの整備 ⇒地域的な特性を考慮した災害情報伝達システムを構築し、市民への広報活動を迅速に行う。</p> <p>交通安全普及活動の実施 ⇒幼児期からの安全指導や、交通安全教育、交通安全指導員の充実を図り、新市が一体となった交通安全普及活動を推進していく。</p> <p>地域防犯活動の実施、啓発推進 ⇒合併を機会に、新市が一体となった防犯活動を推進していく。</p> <p>地域間(旧市町村間)防犯灯の整備 ⇒旧市町村間の道路で、防犯灯が未設置となっている箇所や通学路に防犯灯を設置し、防犯対策を強化する。</p>

分野	主要な事業内容
<p>情報化の促進</p>	<p>電子市役所の推進 ⇒本庁と支所の区別なく、窓口での各種証明や届出ができる電子市役所の構築を推進していく。</p> <p>消防通信施設の整備 ⇒119番受信体制及び発信地表示装置を整備し、新市において現場到着時間の短縮により火災などの消防活動に迅速な対応ができるようにする。</p> <p>e-ネットシティながおかの推進 ⇒新市の一体的な発展と行政サービスの均質化を図るために情報基盤の整備を推進する。</p>
<p>合併を契機とする取り組み</p>	<p>合併記念事業の実施 ⇒市民や地域が企画提案するものや地域の資源を活かした記念イベントを実施する。</p> <p>観光施設・公共施設へのサイン計画の実施 ⇒新市の多様な観光資源や文化施設などへの誘導を一体的に進めるために案内標識を整備する。</p> <p>教育センター機能の整備・充実 ⇒合併に伴う教職員の増加に対応できる研修機能を確保し、教育カリキュラムを充実する。</p> <p>市町村間道路ネットワークの整備 ⇒越路原バイパス整備や長岡市・三島町まちづくりふれあい道路改良舗装事業など、合併を機会に中心部と周辺部及び旧市町村間において連携を強化する幹線道路を整備していく。</p>